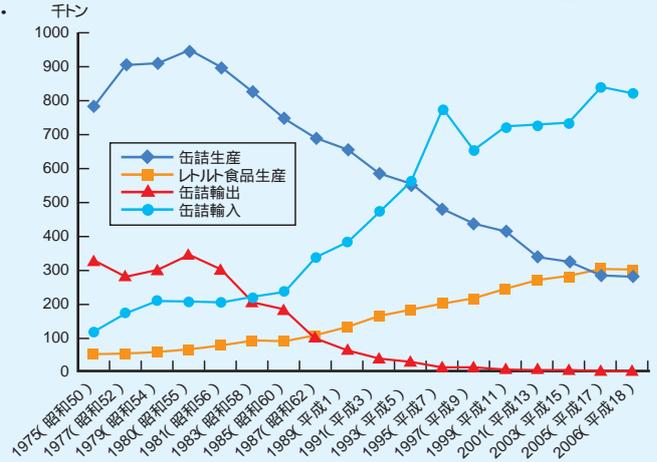


## 第六期（昭和49年～昭和60年）

高度経済成長の終焉。石油ショックによりスタグフレーションに突入、戦後世界経済の成長体制は破壊された。開発途上国の債務返済遅延などで国際金融市場が大混乱におちいった。この過程で、ドル高是正のための各国協調介入が行われて円が急騰、缶詰の輸出競争力が著しく低下したため、本格的な内需転換策が図られた。

昭和50年～平成18年の缶詰レトルト食品生産、輸出入



### 第二次石油ショック(昭和53年)

アメリカで貿易赤字拡大、開発途上国の債務遅延  
日本缶詰協会が大規模「消費拡大キャンペーン」実施(昭和56年から3年間)



# Enjoy CAN Cooking

### プラザ合意(昭和60年9月)

合意に基づき、各国の通貨当局がドル高是正のための協調介入を実施、我が国も積極的にドル売り介入を行った。協調介入で外国為替市場がパニック状態になった。

日米合同による協調介入により、わずか2週間で31円ものドル安円高が進行、昭和60年11月25日には1ドル = 200円を突破し、昭和62年1月19日には1ドル = 150円を突破した。これは、プラザ合意から、わずか1年4カ月の出来事。

### 円高で缶詰の輸出競争力が著しく低下

昭和62年の缶詰輸出は、数量で最高だった昭和55年(34.6万トン)より24.4万トン減少し10.2万トンになった。

輸出品目として残されていた水産缶詰にあっても、本格的な内需転換策を講じる必要性が高まった。

